



JICA-SATREPS プロジェクト  
ベトナムにおける治療成功維持のための“bench-to bedside system”構築と  
新規 HIV-1 感染阻止プロジェクト



継続は力なり：薬剤耐性に関する継続研修 in 東京

(2022 年 12 月 9 日)

前回ニュースレターに引き続き、今回の活動の舞台は日本・東京。訪日招聘した保健省 HIV/AIDS 予防局 (VAAC)、国立熱帯病病院 (NHTD) に加え、プロジェクト活動に積極的に参加してくれている地方病院から医師、看護師、公共衛生専門家を招いて、薬剤耐性 HIV への臨床現場の対応の在り方について、研修会を行いました。これまでのプロジェクトによる活動、研究から、プロジェクト後半戦の焦点の一つと定めている薬剤耐性の問題について、一連のワークショップ、セミナーを通じてベトナムの医療従事者の能力向上を図っています (以下プロジェクトニュースレターをご参照ください)

[HIV 薬剤耐性に関するトレーニングワークショップ開催!](#) (2022 年 8 月)

[HIV 治療に関わる看護師交流会&HIV 薬剤耐性に関するセミナー実施](#) (同年 10 月)



プロジェクトメンバーがほぼ一堂に会しての日本での活動はこれが初めて。



保健省 HIV/AIDS 予防局 Huong 局長も、積極的に発言頂きました。

研修ではこれまで学んできた基礎知識からより一歩抜け出そうと、SATREPS プロジェクトで見られた実際の症例を取り上げました。治療中にウイルス量が下がらない際の、薬剤耐性検査で認められた薬剤耐性変異の意味、適切な治療薬の選択、服薬アドヒアランス支援について、日越双方の専門家が活発に議論しました。また、ACC で使用している包括的情報収集ツールも紹介されました。HIV 治療成功の鍵となる「確実な服薬」を支援するための第一歩として、患者背景について詳細な情報収集が必要となります。ツールを用いることで、服薬支援を行うスタッフ間の経験や能力の差を埋め、情報収集を包括的かつ確実に行うことが可能となります。

今回は訪日した保健省 HIV/AIDS 予防局幹部にも参加してもらい、薬剤耐性 HIV の問題に取り組む重要性についても理解を深めてもらいました。勿論その課題には皆さん気付いているものの、まだベトナムでは薬剤耐性 HIV に対する臨床レベルでのガイドラインは無いと言います。このギャップを SATREPS プロジェクトの研究、提言が埋められるかどうか、プロジェクト終盤に向けた活動の方向性が見えてきた今回の研修でもありました。



最後は皆で記念撮影。日本からも多くの専門家、関係者にお集まりいただきました。

その後、午後 AMED 主催シンポジウムに参加するグループと、日本の協力機関である NCGM・国立国際医療研究センターを見学するチームに分かれました。実りある研修となったか、それは皆さんのベトナム帰国後の活躍にかかっています！プロジェクトも引き続き応援していきたいと思ひます。



ベトナムの地方病院から参加した皆さんも NCGM 前で記念撮影